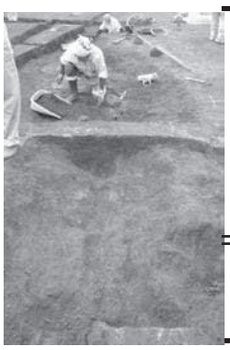


写　真　図　版

池端北耕地下ノ割遺跡の発掘調査

PL.1

1．調査区遠景（南上空から）

榛名山東麓、相馬ケ原扇状地の末端、午王頭川の畔に立地する。スマートインターチェンジの改良によってこの地域の開発は進み、数年後には大きく変貌を遂げるのだろう。

2．調査区近景（南西上空から）

1．調査区垂直（左が北）

2．調査区完掘状況（南から）

3．調査区完掘状況（北から）

4．表土除去状況（南から）

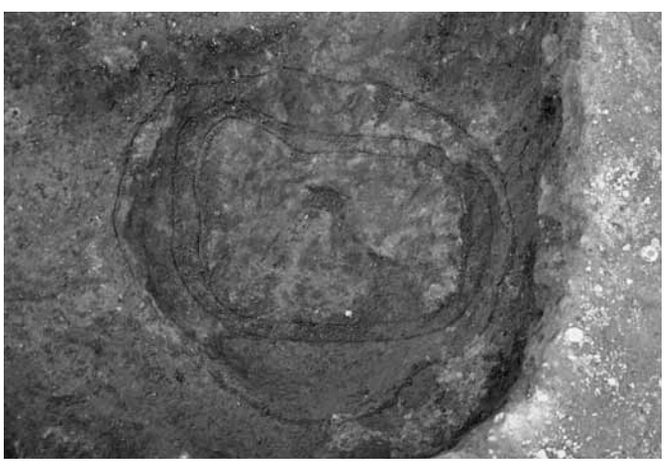
5．遺構検出状況（途中・左が北）

1.　1 号竪穴建物跡（西から）

カマド・貯蔵穴以外に明確な施設は認められない。床面は部分的にロームブロックが認められ、カマド前は硬い。

2．カマド調査状況（西から）

3．カマドの石組（北西から）



4．貯蔵穴（南から）木枠？痕跡が見える。

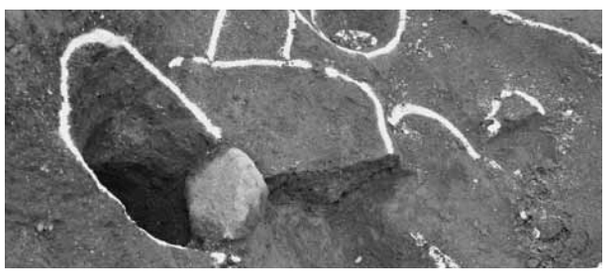
5．堀方調査状況（西から）

１．２号竪穴建物跡（西から）

カマド・貯蔵穴以外の施設は床面で確認できなかったが、柱穴は掘方調査で確認された。1 号溝を切る部分に壁の食い違いがある。

２．堀方調査状況（西から）

３．南壁柱穴　Ｐ１・２

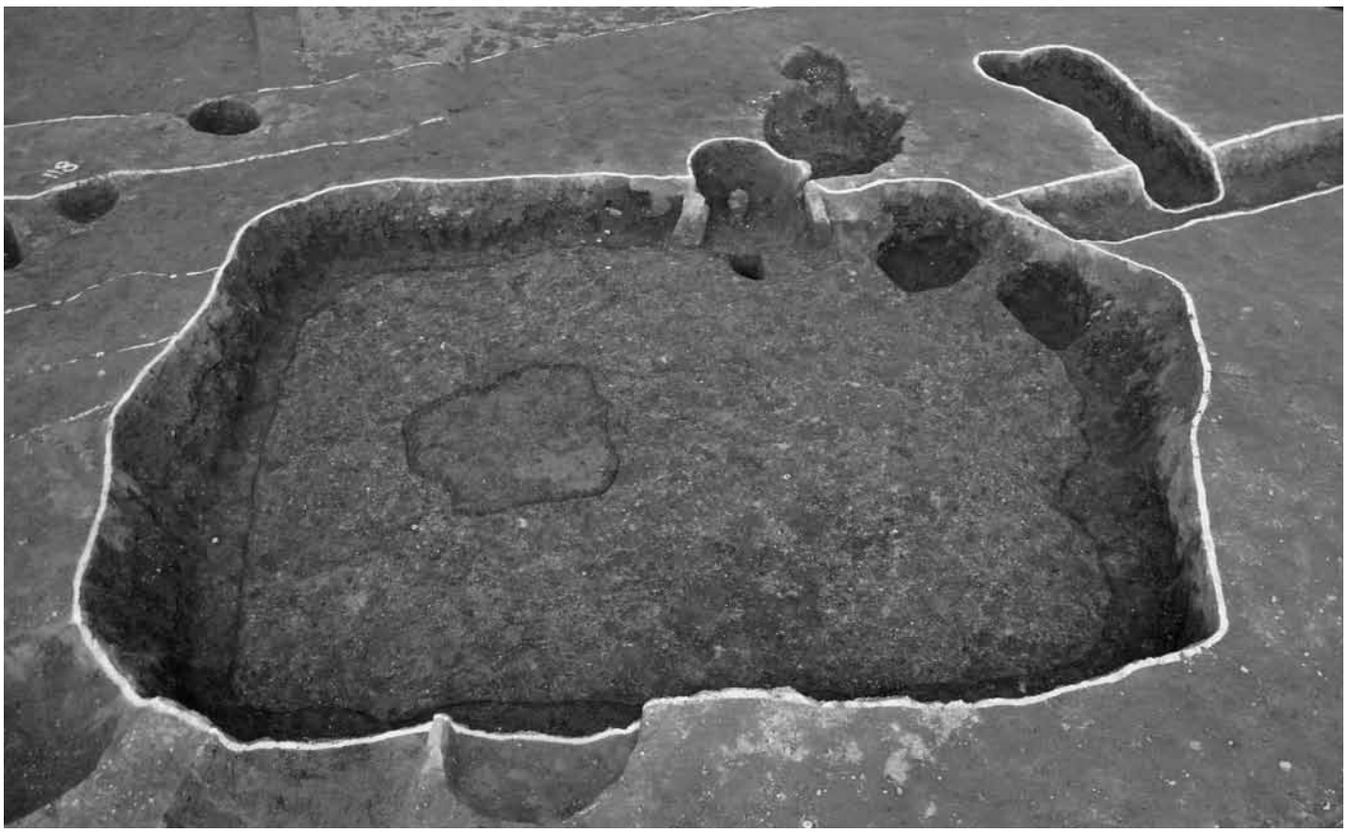


４．南壁柱穴Ｐ１　脇に噛まされた石。

５．遺物出土状況（西から）

６．カマド調査状況（西から）

（３号竪穴建物跡）



1.　３号竪穴建物跡（西から）

床面に一部攪乱、カマド脇に新旧貯蔵穴。壁際には浅い壁周溝。1 号溝を切り、道路跡が覆土上に被っていた。

2. 掘方調査状況（北東から）はっきりしない柱穴。

3．調査状況（西から）カマドは大振りの石で覆われていた。

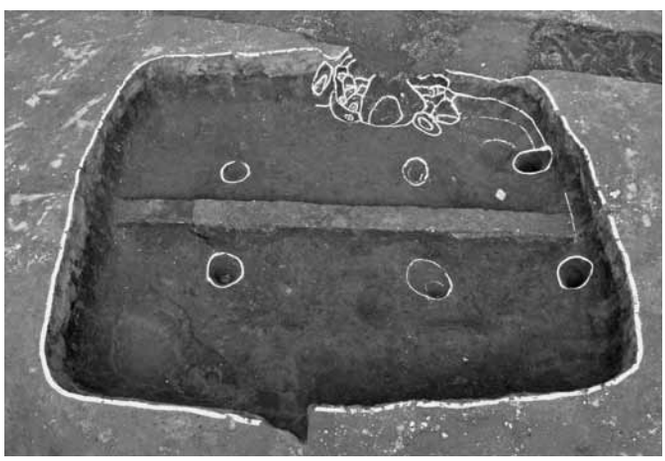
4．カマド上を覆う集石と鉄器（手前）

5．カマド調査状況（西から）袖は切石。

１．４号竪穴建物跡（西から）

カマド脇に貯蔵穴。床面で柱穴は確認できなかった。カマド先端を試掘溝で失っている。

２．遺物出土状況（北西から）壁際に転落した雰囲気。



３．掘方調査状況（西から）６本柱を思わせる小窪み。

４．カマド・貯蔵穴調査状況（南西から）

５．カマド調査状況（西から）手前に旧カマド袖の据え穴。

1.　５号竪穴建物跡（西から）

床面で柱穴は確認できず、貯蔵穴は掘方と重なり判然としない。西壁とカマドの大半を試掘溝で失っている。

2．掘方調査状況（西から）4 本柱を思わせる小窪み。

3．カマド調査状況（西から）下半のみ残存。

4．北壁に洞状に穿たれたＰ３（南から）

5．西壁に洞状に穿たれたＰ１の土層（南東から）

１．６号竪穴建物跡（西から）

大半が調査区外となる上に、真ん中を深い攪乱が横断する有様だが、カマドは右半分の石組を良好に残し、出土遺物も多い。

２．カマド調査状況（北から）軟質砂岩と安山岩による石組。

３．カマド調査遺物出土状況（西から）

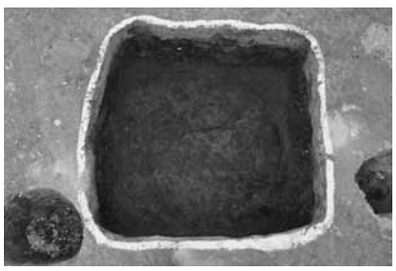
４．カマド袖の粘土（南から）FA 由来の素材か。

５．カマド付近（北東から）調査区壁に塁重する床面。

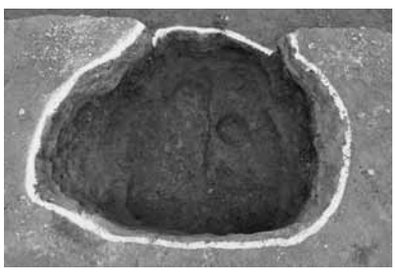
1．1 号掘立柱建物跡　主柱穴検出状況（南から）

2．1 号掘立柱建物跡　調査状況（北西から）

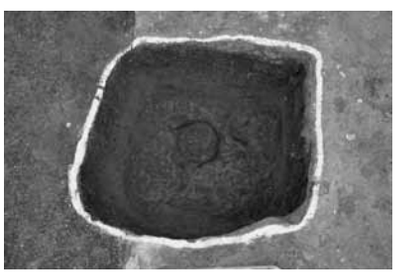
3．1 号掘立柱建物跡　完掘（北上空から）



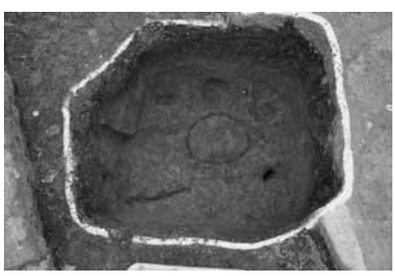
4．柱穴　Ｂ -1 Ｐ 1（南から）



5．柱穴　Ｂ -1 Ｐ 2（東から）

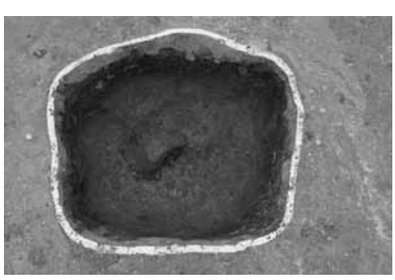


6．柱穴　Ｂ -1 Ｐ 3（南から）

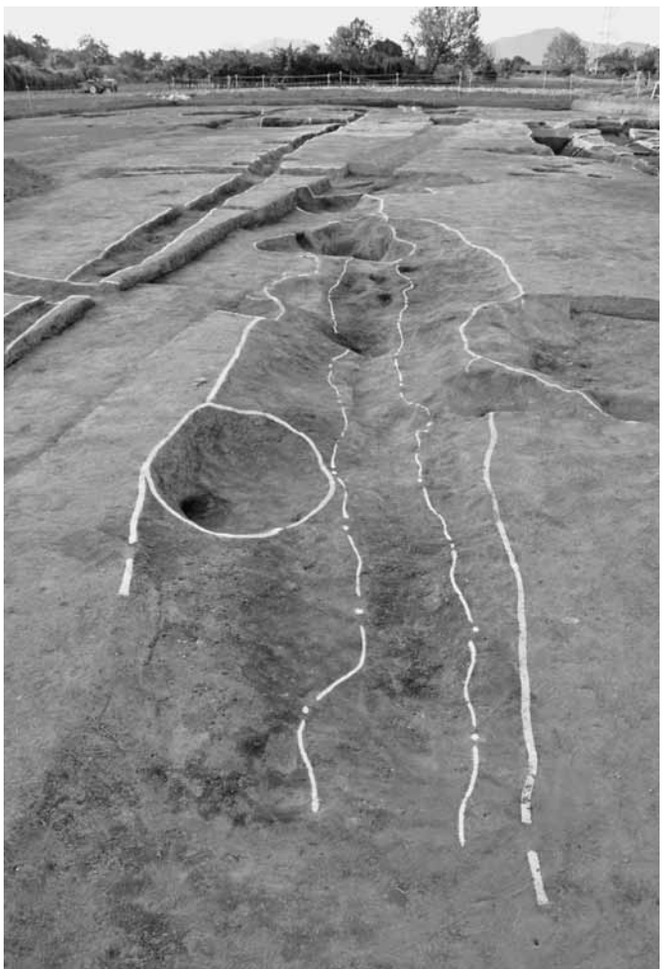


7．柱穴　Ｂ -1 Ｐ 4（南から）

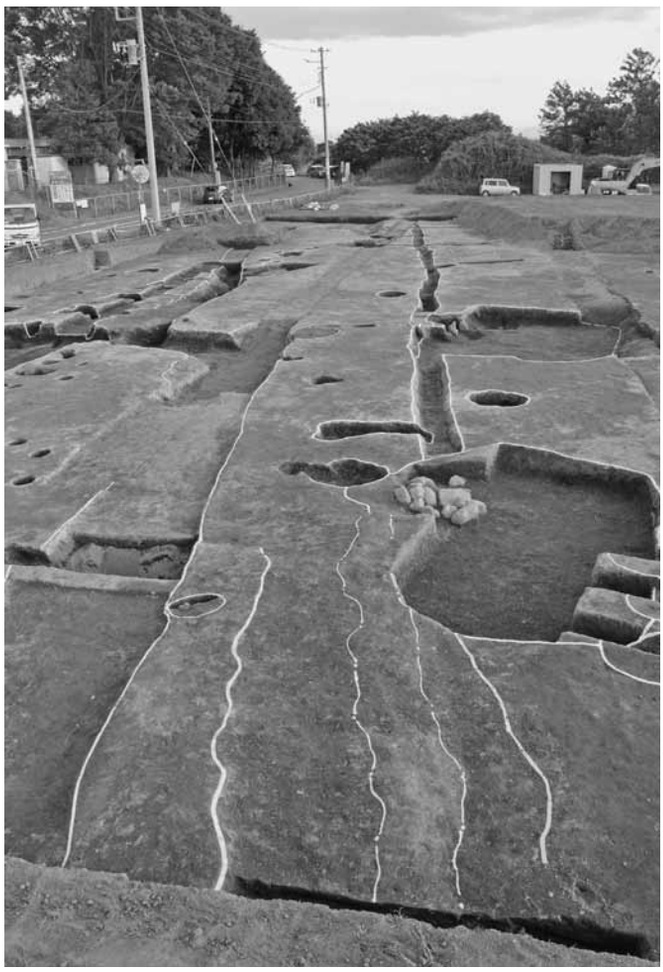
8．柱穴　Ｂ -1 Ｐ 5（南から）



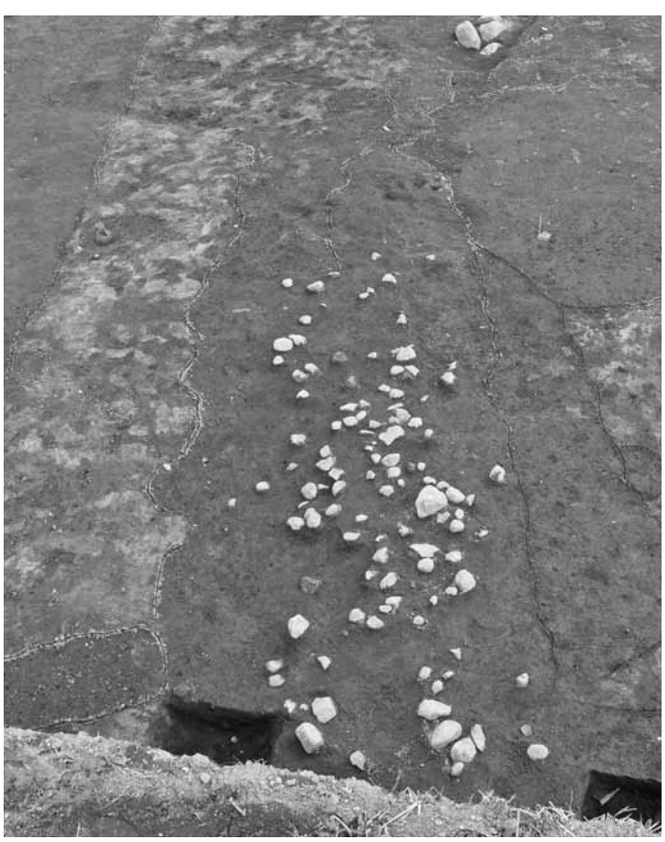
9．柱穴　Ｂ -1 Ｐ 6（南から）



1．2 号道路状遺構（南から）溝状の深い掘り込み。



2．3 号道路状遺構（北から）浅い掘り割り状。



3．3 号道路状遺構　上面礫検出状況（北から）
硬化面上には多数の礫が集中し、土器破片も含まれていた。

4．3 号道路状遺構脇の土器（北東から）
P － 110 内に伏せて埋設された土師器坏。地鎮か。

PL.11

1．1 号道路状遺構　断面（西から）硬化面のみ。

2．4 号道路状遺構　断面（北から）浅い掘り込み。

3．1 号溝跡（南から）1 号掘立を壊す。近世。

4．2 号溝跡（左北から・右南から）断面逆台形で底面に工具痕。古代。

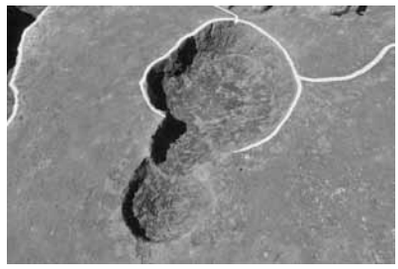
5．3・4 溝跡（東から）　近世？

6．5 号溝跡（東から）　古代？

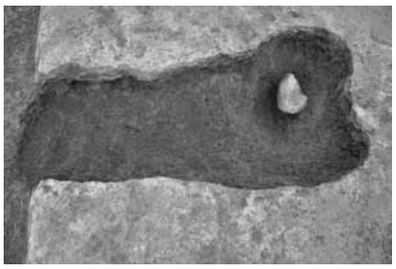
7．6 号溝跡（北西から）　古代円形周溝？

1．13･14 号ピット（西から）

2．77 号ピット（南から）

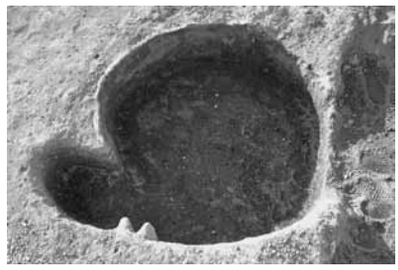


3．100 ～ 102 号ピット（東から）



4．103 号ピット（南から）

5．108 号ピット（南から）

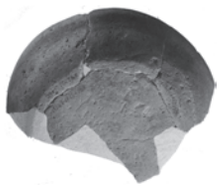


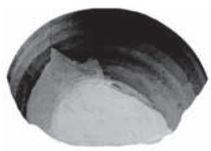
6．111・112 号ピット（南から）

7．調査区パノラマ（南西から）

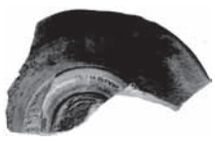
8．作業状況（南東から）

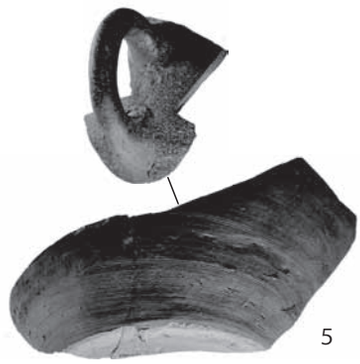
出土遺物（土器）


1

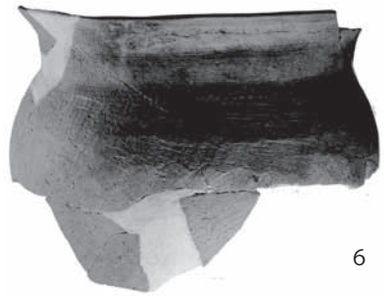

2

3


4


5

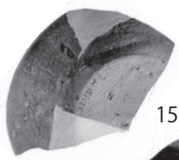
H-1


6

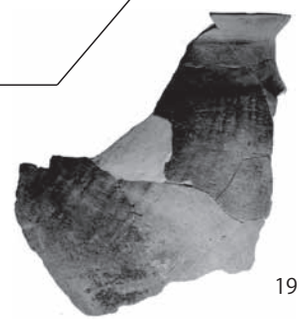
H-2

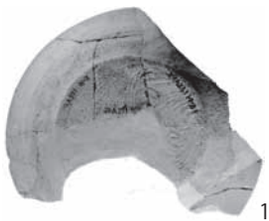
12

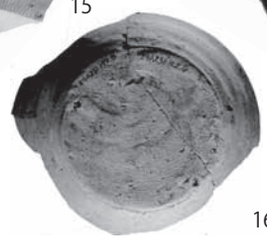
13

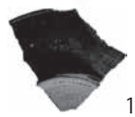

15

17


19


14

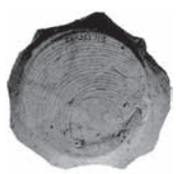

16


18

20

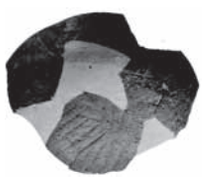
22

24


27

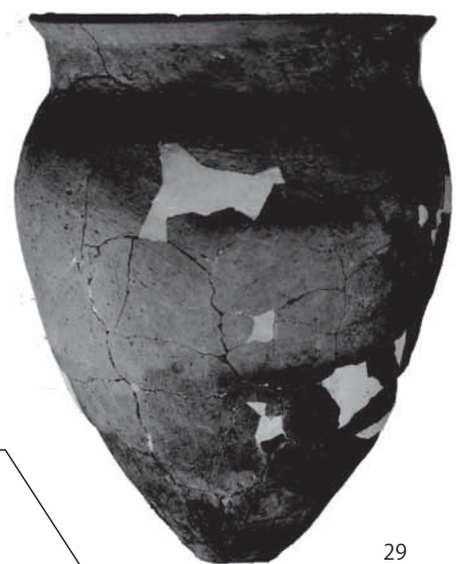
25

28

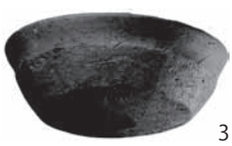

23

26

H-3

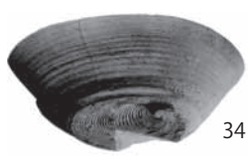

29

H-4


31

32

33


34

35

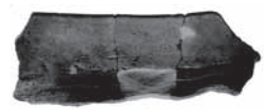
36

H-5

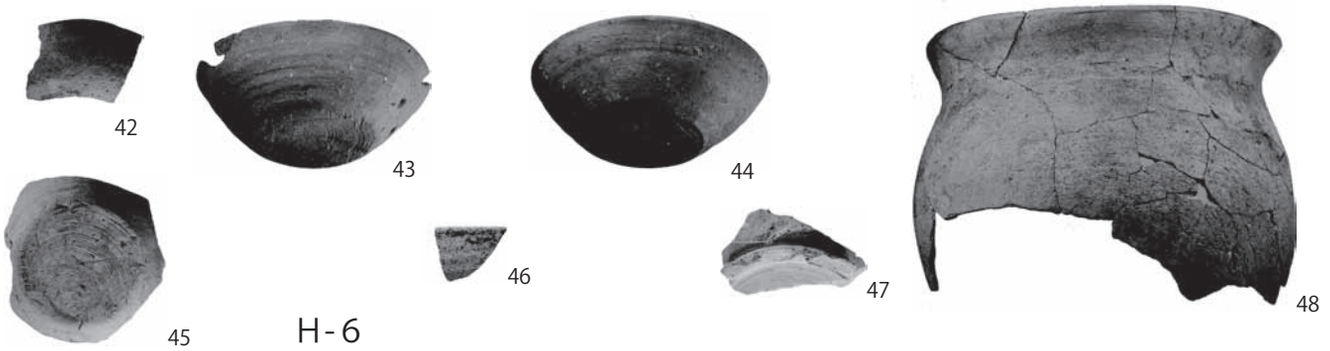
38

39

40

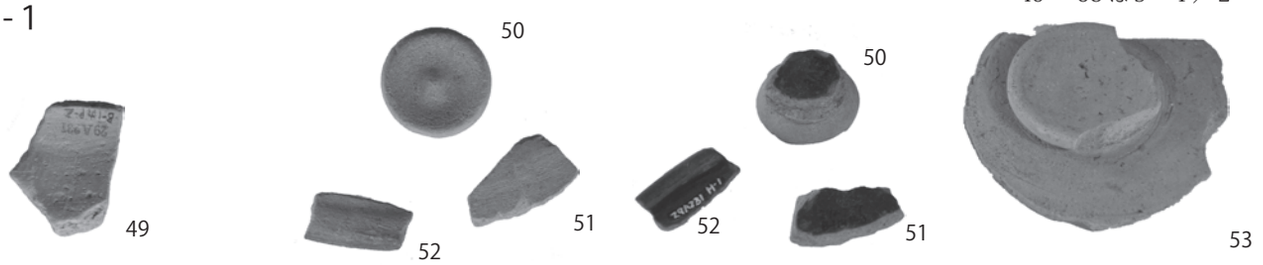

41

土器（S＝1／4）

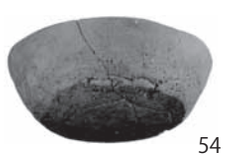


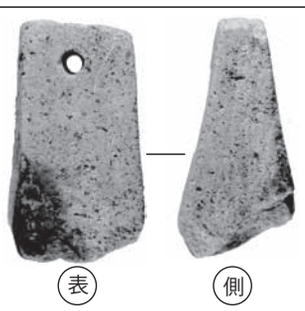
49 ～ 53 は S ＝ 1 ／ 2

B-1



P-110





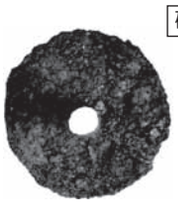
11（H-1）
砥石

9（H-1）
釘

10（H-1）

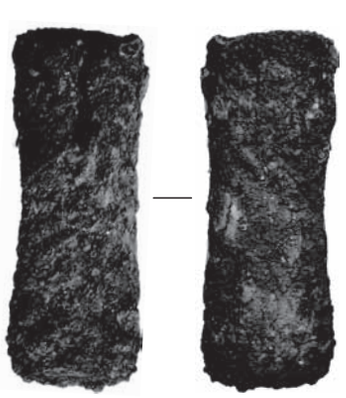
21（H-2）

鉄塊系遺物



7（H-1）
鑿？

8（H-1）
紡錘車



55（A-3）
鉄斧

37（H-4）　30（H-3）
刀子

石製品・鉄製品（S ＝ 1 ／ 2）

報告書抄録

ふりがな	いけはたきたのこうちしものわりいせき
書　　名	池端北耕地下ノ割遺跡
副 書 名	駒寄スマートインターチェンジ大型車対応化整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
編著者名	永井智教・原野真祐・小峰篤
編集機関	山下工業株式会社
	〒 371-0244　前橋市鼻毛石町 207-8
発行機関	前橋市教育委員会文化財保護課
	〒 371-0853　前橋市総社町 3 － 11 － 4
発行年月日	2018 年 3 月 23 日

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査対象面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
池端北耕地下ノ割	群馬県前橋市池端町285-2,285-3,286-2,286-3,284	10201	0108（29A231）	36°25′51″	139°00′49″	2017.08.01 ～ 2017.10.12	1,585㎡	駒寄スマートインターチェンジ大型車対応化整備事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
池端北耕地下ノ割	集落	奈良平安時代	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 道路状遺構 溝跡 性格不明遺構 土坑・ピット	6 1 5 2 2 多数	土師器 須恵器 鉄製品 (紡錘車等) 石製品	奈良時代の大型掘立柱建物跡と区画溝跡・道路状遺構→平安時代前半竪穴建物跡群 (通常集落) →道路状遺構の順で変遷。　大型掘立柱建物跡は方形柱穴で廂をもつ大規模なもの。道路状遺構は「鎌倉街道」として近年まで踏襲されていた。
		近世・近代	溝跡 ピット	3 多数	陶磁器片 銅製品 (煙管)	「角倉街道」名残の畦道に沿った区画溝と、それに直行する地割溝。 近世以降の土地利用を窺わせる。

池端北耕地下ノ割遺跡

駒寄スマートインターチェンジ大型車対応化整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成30年3月19日印刷
平成30年3月23日発行
編集/山下工業株式会社
発行/前橋市教育委員会
前橋市総社町3-11-4
TEL　027-280-6511
印刷/朝日印刷工業株式会社